

水輪

第25号 2026(令和8年)年3月発行

編集・発行

熊本大学教育学部・国際交流委員会

山城 千秋(委員長・教育学)

黨 武彦(副学部長・社会科教育)

黒山 竜太(教職教育)

萩原 幸二(数学科教育)

篠塚 致子(家庭科教育)

OSHIMA KAREN(英語科教育)

(2025年度)

水輪第25号の発行によせて

教育学部長 大学院教育学研究科長 藤田 豊



本学部への短期留学生の受入れは、コロナ禍後順調な回復傾向にあり、前期・後期に20名程度と以前と同様に海外からの留学生を受入れ、主に実技系教科を中心に教職科目の授業を聴講されています。また、年に2回ほどですが、日本の文化や

初等教育について理解を深めて貰うための交流会を設けています。今年度は、和食をテーマに、家庭科教育講座の先生の協力を得て、短期留学生、学部生、国際交流担当の教職員とでグループに分かれて、ごはんのみそ汁を作るクッキングの時間を設けました。地域に伝わる伝統的な和菓子“わらび餅”も作り、皆で日本の食文化を味わう時間を共有することができました。

受入れの人数はさほど多くありませんが、毎年、日本政府の奨学金で海外から現職教員を受け入れ、日本の教育制度や教育方法、教育実践等について深く学んで貰う海外教員研修留学生も受入れています。毎年3月上旬に、1年間の研修内容について報告会を設けています。学部学生や教員も一緒に参加し、意見交換をする場になっており、海外から派遣される現職の先生にとって、日本の社会や文化や歴史、日本の初等・中等教育がどのように映っているか、我々教員の側も外国につながる方々の目を通して気付かされる貴重な機会になっています。昨年度は、ウズベキスタンから短期留学された小学校の先生でしたが、日本の英語教育の始まりは江戸時代に遡り、中国語、オランダ語に続く3番目の外国語であったこと、その学習の

方法は中国語を学んだ時と同様に、両言語間で文法構造を対応させて意味を解読して行く訳読に従っていたこと、日本における多くの外国語の学習は、その後も長いあいだ文法を重視した教育が続き、近年漸くコミュニケーションを重視した実践を通して学ぶ学び教育・学習の方法に移行していることについて発表されていました。また、今年度はインドネシアからの留学生で、現在の教員養成や教員免許制度や教員採用のあり方や働き方、教育現場が抱えている課題を整理しながら、日本との比較を通して、インドネシアが抱えている教育事情を整理し、抜本的な教育改革を進めるための視点等(人口問題、金融危機、公務員制度改革、島しょ国としての自治制度等)についてまとめられており、研究者から見ても深く考えさせられる内容でした。

グローバル人材の育成強化という熊本大学の経営戦略に沿いながら、本学部においても、令和8年4月から附属小学校に国際クラスが設置され、日本の学習指導要領に従って英語と日本語を使いながら授業を行うイマージョン教育がスタートします。学部教育も改革を進め、附属学校と同様に令和8年4月から地域と協働しながら教育課題を解決していくための「国際枠」を設け、附属学校国際クラスでの教育実習や海外連携協定校でのバイリンガル教育等を学修できるプログラムを用意します。教職大学院では、第4のコース「教育の国際化実践高度化コース」が設置され、イマージョン教育のスキル向上に特化した教育カリキュラムが令和7年4月からスタートしています。

多文化共生社会と教育学部

国際交流委員長・教育学 山城 千秋

熊本のまちでも、日常のなかで外国人の姿を見かけることが増えてきました。地域における交流も少しずつ広がっています。

しかし教育学部では、留学生と一緒に授業を受ける機会はまだまだ多いとはいえ、大学院にも留学生が在籍していないことから、日常的な交流の場は限られているのが現状です。

一方で、附属小学校では来年度から国際クラスが開設される予定です。また、公立学校でも外国にルーツをもつ子どもたちは確実に増えています。これからの教室には、多様な背景をもつ子どもたちがともに学ぶ環境づくり、すなわち多文化共生の視点がますます求められています。

今年度の留学生交流会では、学部生と留学生と一緒に和食づくりに挑戦しました。家庭科の篠塚先生のご指導のもと、言葉だけでなく身振り手振りも交えながら、和やかな雰囲気の中で調理が進みました。同じものを一緒につくるという体験は、自然と距離を縮めてくれます。

私の授業では、多文化共生をテーマにした交流活動に取り組みました。熊本市国際交流会館の八木浩光氏、熊本イスラミックセンターのイマームであるモハンマド・ウアティクアル＝ジャザイリー氏と協力し、子どもたちとの日本語交流会を企画しました。全3回にわたり実施し、ムスリムの子どもたちと遊びを通して互いを知る貴重な機会となりました。

さらにラマダンのイフタールにも参加させていただき、食事をともにすることの意味や、人と人とのつながりの大切さを実感しました。

こうした取り組みの広がりの中、本学部の学生が初めて、国際交流基金の日本語パートナーズ派遣事業（教職志望学生推薦プログラム）により、2026年度に海外へ派遣されることになりました。これから教員をめざす学生にとって、自分自身が「外国人」として異文化の中で生活する経験は、大きな学びとなるはずです。

多文化共生社会は、特別なものではなく、すでに私たちの身近なところにあります。これからの教育現場では、異なる文化や価値観を尊重しながら、ともに学び合う姿勢がますます重要になるでしょう。本学部でも、そうした力を育む取り組みを今後も大切にしていきたいと考えています。

留学生のことば

インドネシア人留学生から見た日本

アンディ ム ハン マド シュクリ
ANDI MUHAMMAD SYUKRI (インドネシア Indonesia) 【25.4 ー 在学中 (26.3)】

教員研修留学生 大学院研究生

はじめまして。インドネシア出身の教員研修生、シュクリと申します。バンタエン県の修士課程で英語を教えています。

最初は日本での生活になかなか慣れませんでした。外国人の友人や先生方の支えのおかげで、徐々に慣れていきました。日本人は誠実で信頼できる人々だと実感しました。熊本大学教育学部で学んだことで、日本の教育制度を実際に学び、体験する機会を得ることができました。附属小学校・中学校・特別支援学校、済々黉高等学校など、いくつかの学校を訪問しました。多くの優秀な先生方と出会い、優秀な生徒たちとインドネシア文化を共有しました。また、地元の方々と日本のお菓子「いきなり団子」を作る機会にも恵まれました。「いきなり団子」は甘くて美味しかったです！

日本留学中、日本人の友達も出来ました。そして、東京や京都、大阪、福岡、宮崎などを訪れる機会に恵まれました。そこで、調和、思いやり、そして助け合いといった、世界中の日本人が大切にしている共通の価値観を発見しました。

インドネシアに帰国後、日本で得た経験と知識を生徒たちと共有したいと思っています。附属中学校は、私の学校の生徒たちと Zoom セッションを開催することで交流を深めることに喜んで賛成してくれました。教育を通して両国の関わりを強め、広げていき、若い世代が日本への留学を希望するきっかけを作ることで、インドネシアと日本の友好の架け橋になりたいと思っています。



Salam kenal, saya Syukri, mahasiswa riset teacher Training dari Indonesia. Saya adalah seorang guru Bahasa Inggris di salah satu MA di Kabupaten Bantaeng.

Awalnya, saya kesulitan menyesuaikan diri dengan kehidupan di Jepang, tetapi lama-kelamaan saya akhirnya terbiasa berkat dukungan dari teman-teman dari negara lain dan Sensei saya. Saya menyadari bahwa orang Jepang itu jujur dan dapat dipercaya. Belajar di Fakultas Pendidikan Kumamoto University, memberi saya kesempatan untuk mempelajari dan menyaksikan sistem pendidikan Jepang secara langsung.

Saya mengunjungi beberapa sekolah seperti SD dan SMP Fuzoku, Sekolah Luar Biasa asuhan Kumamoto University serta SMA unggulan Seiseiko. Saya banyak bertemu dengan guru-guru yang hebat, dan bertukar budaya Indonesia dengan siswa-siswa yang luar biasa. Saya juga berkesempatan membuat kudapan khas Jepang, *Ikinari Dango* bersama penduduk setempat.

Selama masa studi di Jepang, saya berkesempatan mengunjungi Tokyo, Kyoto, Osaka, Fukuoka, dan Miyazaki. Saya menemukan nilai-nilai kehidupan universal yang dijunjung tinggi oleh orang Jepang dari berbagai tempat yakni keharmonisan, kepedulian dan rasa saling tolong menolong.

Setelah kembali ke Indonesia, saya berharap dapat berbagi pengalaman dan ilmu yang saya peroleh di Jepang dengan murid-murid saya. SMP Fuzoku telah bersepakat untuk menjalin hubungan dengan melakukan sesi zoom bersama dengan siswa-siwi dari sekolah saya. Saya ingin menjadi jembatan persahabatan antara Indonesia dan Jepang dengan menyebarkan semangat hubungan diplomatik antara kedua negara melalui pendidikan dan memotivasi generasi muda untuk belajar ke Jepang, sehingga persahabatan antara kedua negara semakin erat.



熊本での歩みと未来への展望

部局間交流留学生 学部特別聴講学生
張逸勳 (台湾 Taiwan) 【25.10 - 在学中 (26.8)】

私は台湾から来た留学生、張逸勳です。現在、熊本大学で一年間の留學生活を送っており、熊本での生活も約二か月が過ぎました。熊本の冬は台湾よりずっと寒いですが、空気が乾燥しているため意外と過ごしやすく感じています。

大学では、美術や教育学、日本語など幅広く学んでいます。授業以外では、自分で料理を作り、台湾の家庭料理を再現して楽しんでいます。

休日には熊本市内を散策することが多く、先日は県庁前の銀杏並木を見に行きました。

黄金色に染まった景色は本当に見事で、強く印象に残っています。この留學期間中に熊本のさまざまな風景に触れながら、日本語力をさらに向上させたいと考えています。将来の進路の幅を広げ、自分の強みとなるような経験を積んでいきたいです。



我是來自台灣的留學生張逸勳。我目前做熊本大學進行為期一年的留學生活，目前已經在熊本生活了2個月左右。跟台灣比起來，熊本的冬天真的好冷，但天氣比較乾燥，所以生活起來還蠻舒服的。

我現在平常在大學會學習美術、教育學、日文相關的內容。除了上學之外，還會自己煮飯，煮一下家鄉味的料理；假日則會在熊本市內到處走走晃晃，之前去熊本縣廳前看銀杏，真的非常漂亮、壯觀。

我也想在這段留學期間看看熊本的各種風景，也希望能拖過這次機會使自己的日文能力更加進步，能夠幫助我在未來職涯上有更多的選擇、競爭力。



熊本留学で広がった学びと出会い

チン フクレン
陳 福蓮 (台湾 Taiwan) 【25.10 — 在学中 (26.8)】

部局間交流留学生 学部特別聴講学生

私は陳福蓮と申します。台湾出身で、現在、熊本大学で留学しています。

日本語を学び始めたきっかけは、好きなアニメを字幕なしで楽しみたいと思ったからです。勉強を続けるうちに、日本の生活を自分の目で見て体験し、文化や考え方をもっと深く知りたいという気持ちも強くなりました。

来日する前は、言葉や生活にうまくなじめるか不安でした。しかし、実際に来てみると先生やクラスメートがとても親切で、授業だけでなく、日常生活でもたくさん助けてくれました。生活に慣れてからは、日本人との交流イベントにも参加するようになり、友達ができただけで日常会話の機会も増えました。また、大観峰や草千里ヶ浜、阿蘇山火山口など熊本の名所を訪れ、日本の自然のすばらしさを感じました。特に阿蘇火山の景色は、とても印象に残っています。

将来は翻訳の仕事に関わりたいと思っています。

そのために、これからも語学力や専門的な知識をしっかり身につけていきたいと考えています。

我叫陳福蓮，來自台灣，目前在熊本大學留學。

一開始學習日文，是因為想在沒有字幕的情況下理解喜歡的動漫。隨著學習的深入，也開始希望能親自體驗日本的生活，更了解當地的文化與價值觀。

來日本之前，很擔心自己是否能適應語言和生活環境。但實際來到這裡後，老師和同學都非常親切，不僅在課業上，連生活上也給了我許多幫助。生活逐漸穩定後，也開始參與與日本人的交流活動；交到朋友之後，能練習日常會話的機會也變多了。此外，還去了大觀峰、草千里浜、阿蘇山火山口等熊本的著名景點，親身感受日本自然的壯麗，其中阿蘇火山口的景色最令人印象深刻。

將來希望從事翻譯相關的工作。為了達成這個目標，我會持續提升語言能力與相關知識。



初めての日本での生活と成長

オウ ヨクショウ
汪 翊翔 (台湾 Taiwan) 【25.10 — 在学中 (26.8)】

部局間交流留学生 学部特別聴講学生

私の名前は汪翊翔(オウ ヨク ショウ)です。今年の9月末に初めて日本にきました。来日したばかりの頃は、さまざまな手続きをしなければならず、環境にも慣れていなかったため、とても緊張して落ち着いた生活を送ることができませんでした。しかし、一か月ほど経つと、日本での生活にも慣れ、だんだんと余裕を持てるようになりました。

熊本は風景がとても美しく、町も清潔で過ごしやすい場所です。周りの方々も親切に接して下さり、毎日安心して生活できています。歌うことが大好きな私は、現在は週に一度ほどカラオケに行くようになり、日本では料金も手頃で、とても楽しんでいます。

こちらに来てから日本語を勉強して約二か月になりますが、授業やさまざまな活動に参加したおかげで、特に会話力が大きく伸びたと感じています。来日当初よりも自然に言葉が出てくるようになり、今後もさらに日本語力を高めたいと思っています。

また、来年は再び日本でインターンシップを行う予定です。日本の職場環境を体験し、自分の視野を広げ、将来は日本に関わる仕事に就きたいと考えています。これまで学んだことを活かして成長していきたいです。

您好，我是汪翊翔。我是在今年九月末第一次來到日本。剛到日本時因為要辦理很多事情，再加上對環境不熟悉，所以感到非常緊張，也還沒能穩定地展開生活。不過，經過一個多月之後，我逐漸習慣了日本的生活節奏。

熊本の風景非常漂亮，城市環境也十分乾淨，周圍的人都很親切地對待我們，讓我感到非常溫暖。我很喜歡現在的生活。現在我大約每週會去一次KTV，我非常喜歡唱歌，而且費用也很便宜，去的時候都覺得非常開心。

到目前為止，我學習日文大約兩個月，也參加了許多活動，讓我的日語能力明顯提升。尤其是會話能力，比剛來時更自然、更直覺了。我希望今後能繼續提升自己的日語水平。

此外，明年我還會再次前往日本實習，體驗日本的工作環境，增廣見聞。希望未來能從事與日本相關的工作，把自己所學的能力發揮出來。



2025（令和7）年度 委員会年間行事 Annual Events in 2025

教育学部（Faculty of Education）	
4月 April	2025年度前期留学生受入 Admission of International Students (Spring Semester 2025)
10月 October	2025年度後期留学生受入 Admission of International Students (Fall Semester 2025)
11月 November	留学生交流会 International Student Exchange Event
12月 December	留学生紹介ポスター International Student Introduction Poster
3月 March	教員研修留学生研究報告会 Presentation of Research Achievements for Teacher Training Program Students
	国際交流通信「水輪」第25号発行 Publication of International Exchange Newsletter "Minawa" Volume 25

2025（令和7）年度 留学生受入状況 (Number of International Students in 2025)

	所属大学（Department University）	国籍（Country）	
日本語・日本文化研修留学生 (Japanese Studies Students)	ハノイ国家大学外国語大学 (University of Languages and International Studies, ULIS)	ベトナム（Vietnam）	1
	チャナッカレ オンセキズ マルト大学 (Canakkale Onsekiz Mart University)	トルコ（Türkiye）	1
部局間交流留学生 (Department Exchange Students)	所属大学（Department University） 徳明財經科技大學 (College of Management, University of Science and Technology of China)	国籍（Country） 台湾（Taiwan）	人 4
	特別聴講学生（Special Auditor）	国籍（Country）	人
	所属大学（Department University） 広西師範大学(Guangxi Normal University)	中国（China）	5
	山東大学（Shandong University）		2
	桂林理工大学（Guilin University of technology）		1
	亞洲大学校（Ajou University）	韓国（Korea）	1
	釜山大学校（Pusan National University）		1
	長栄大学（Chang Jung Christian University）	台湾（Taiwan）	4
	国立台湾大学（National Taiwan University）		1
	インドネシア・イスラム大学 (Universitas Islam Indonesia)	インドネシア（Indonesia）	2
	チュラロンコン大学(Chulalongkorn University)	タイ（Thailand）	1
	リーズ大学（University of Leeds）	英国（United Kingdom）	1
	ダラム大学（Durham University）		1
	エクス-マルセイユ大学 (Aix-Marseille University)	フランス（France）	2
	ボルドー・モンテーニュ大学 (Bordeaux Montaigne University)		1
	モンタナ大学 (The University of Montana)	米国 (United States of America)	2
教員研修留学生 (Teacher Training Students)	所属大学（Department University）	国籍（Country）	人
	マカッサル州立大学 (State University of Makassar)	インドネシア（Indonesia）	1

水, 水鳥, 雪, 鳥が含まれている画像
AI生成コンテンツは誤りを
含む可能性があります。

事務室から

2025年度も多くの留学生のみなさんを教育学部に迎えることができました。未知の文化や言葉に触れるとき、一番の原動力になるのは「なぜだろう？」という小さな好奇心(curiosity)です。交流会など、みなさんの好奇心がきっかけで生まれた笑顔が、キャンパスのあちこちで見られたことをとても嬉しく思います。

教育学部教務担当では、みなさんのその好奇心、探究心を大切に、熊本大学での留学生活がより豊かなものになるようサポートしています。証明書の発行や奨学金、イベント案内などは学生ロビーに掲示していますので、疑問や困りごとがあれば、いつでも気軽に事務室を訪ねてください。

みなさんの好奇心が、新しい発見につながることを応援しています。

編集後記

水輪(みなわ)第25号を発行します。今年度より、電子版により発行することになりました。今年度は、4名の留学生に『留学生のことば』を執筆していただきました。原稿執筆および編集にご協力いただいた留学生、藤田学部長、国際交流委員会の先生方、教務係の方々に心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルスの影響もようやく落ち着き、教育学部に多くの留学生を迎え、会食を含む交流会等もできるようになりました。今後も、国籍を超えた笑顔と交流の輪が広がっていくことを切に期待しています。

最後に、留学生の皆さんにとって、熊本での留学が人生の財産となるような素晴らしい経験になることを心から願っております。

(国際交流委員会委員 梶原幸二)